

下水道の整備効果

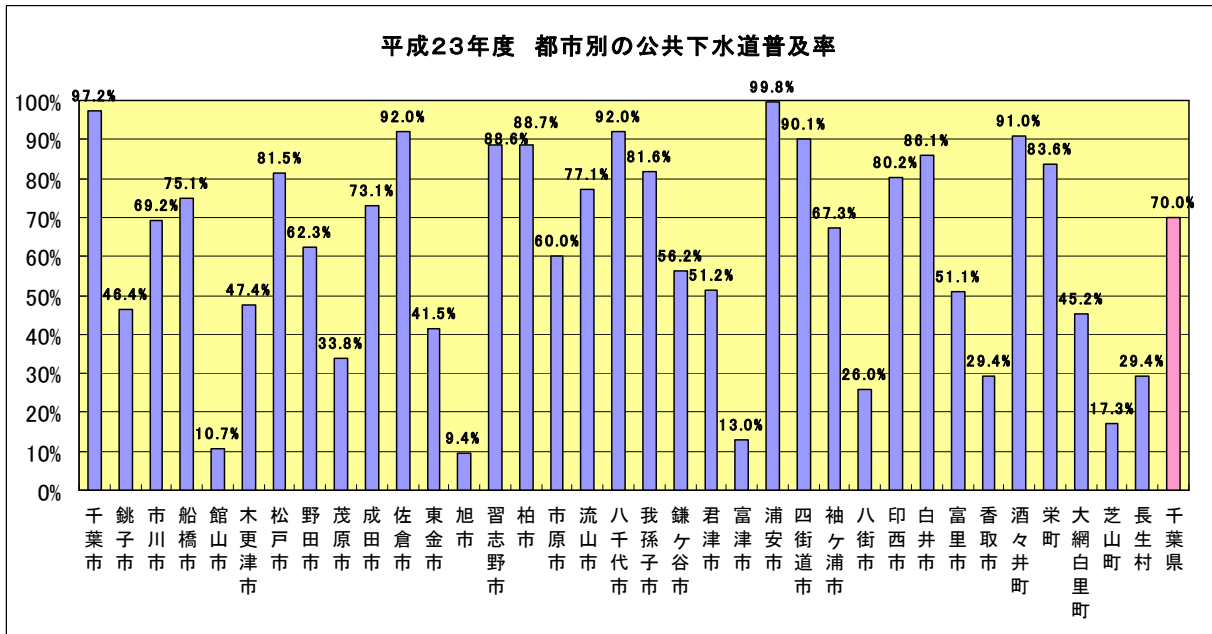
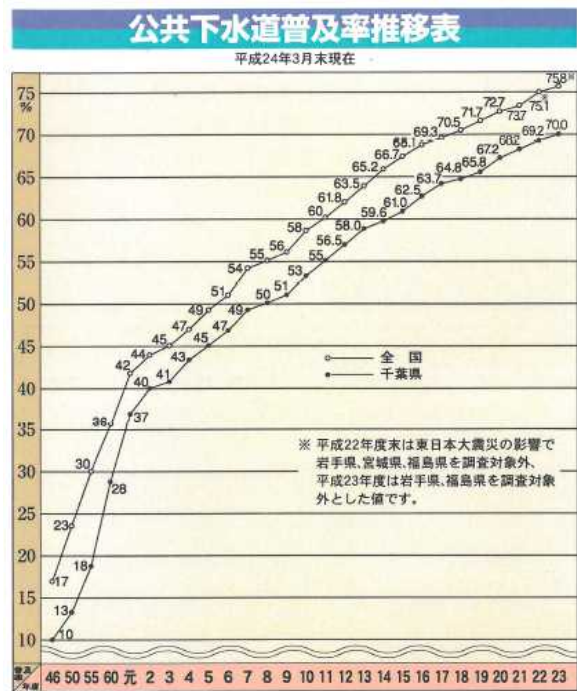
(1) 下水道普及率

平成23年度末現在、35市町村で事業を進めており、千葉県の下水道普及率は、70.0%で、全国で19番目となっています。(全国の下水道処理人口普及率は75.8%)

※東日本大震災の影響で、岩手県、福島県の2県を除く。

下水道整備の推進により、およそ430万人の県民が下水道を利用できるようになりました。

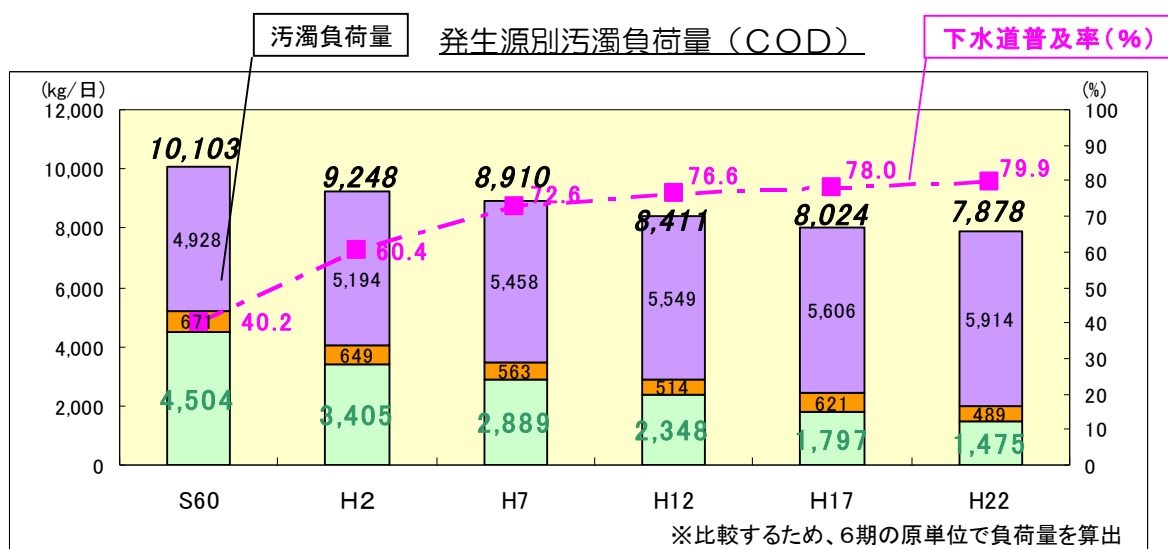
しかし、公共下水道に着手していない市町村が19あり、また、市町村間の整備格差が著しくなっており、未着手市町村における早期着手が望まれています。



(2) 下水道普及率と汚濁負荷量の経年変化

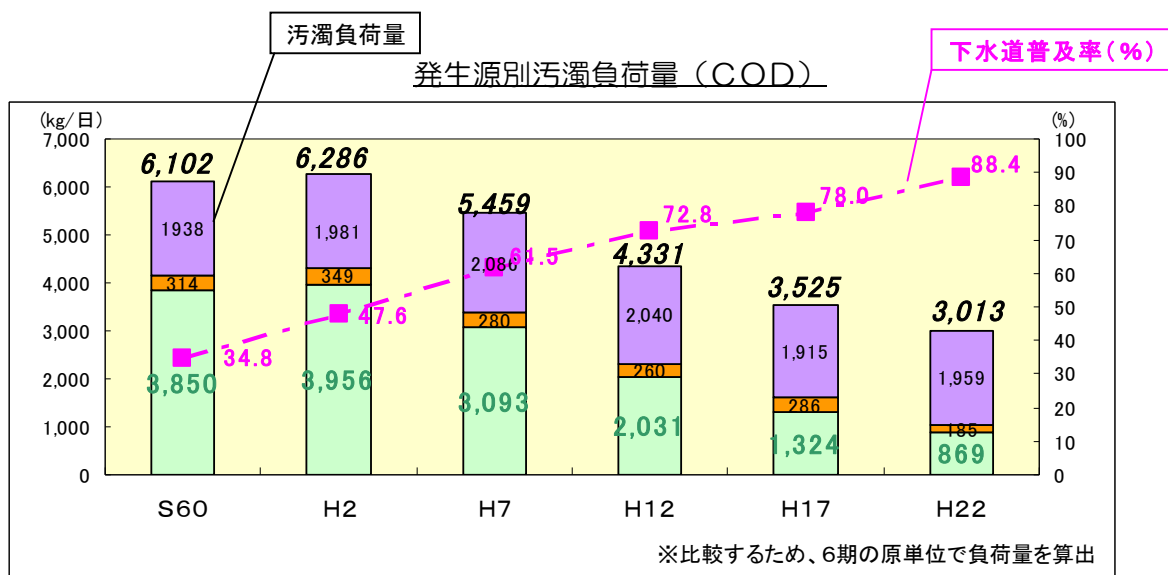
～印旛沼～

昭和60年から平成22年までの25年間で、下水道普及率は、39.7%向上
生活系汚濁負荷量（COD）は、67.3%減少（4,504→1,475 t/日）



～手賀沼～

昭和60年から平成22年までの25年間で、下水道普及率は、53.6%向上
生活系汚濁負荷量（COD）は、77.4%減少（3,850→869 t/日）



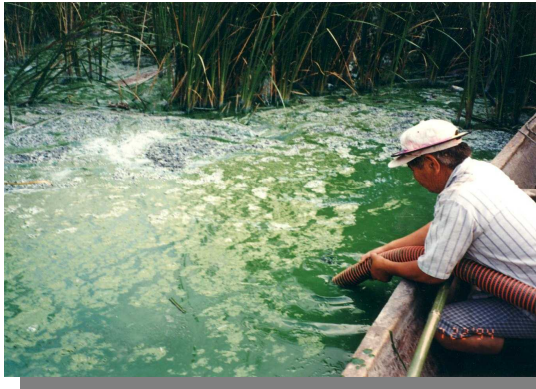
- 自然系：市街地や農地、山林などから排出される汚れ
- 産業系：工場や事業場などから排出される汚れ
- 生活系：家庭から排出される汚れ

(3) 下水道の整備効果

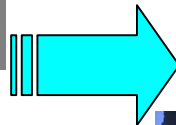
- ◆ 下水処理水は、東京湾（印場沼の場合）や利根川（手賀沼の場合）に系外放流しており、沼への汚濁負荷流入を100%カットしています。
- ◆ 生活系汚濁負荷量は、公共下水道の普及促進に伴い大きく削減され、また、産業系、自然系を合わせた全体量の削減にも大きく貢献されています。

(4) 下水道の整備等による水質改善効果

- ◆ 手賀沼は、下水道の整備の他、利根川からの導水（北千葉導水事業）、ヘドロの浚渫、等の総合的な水質浄化の取り組みにより、平成13年度で湖沼汚濁全国ワースト1の汚名を返上しました。



昭和50年代汚染が最も深刻な時期の手賀沼アオコが大量に発生し、沼面を覆っている。



今の手賀沼 手賀沼公園は、週末には、多くの家族連れが訪れる憩いの場となっている。

